

過去 十勝で暮らしていた 皆様へ
現在 十勝で暮らしている 皆様へ
将来 十勝で暮らしてみたい 皆様へ



「十勝創生」に向けての 宣 言



平成27年5月

十 勝 町 村 会

本宣言は、十勝管内各町村のホームページに掲載されます。

「十勝創生」に向けての宣言

私たちは十勝町村会と称し、北海道十勝地域の18町村で構成しており、現在、この18町村に18万人が住んでいます。

60年前の1955（昭和30）年、帯広市を含む十勝地域の総人口が初めて30万人を超えて34万人となった時、私たちの町村部には、25万人が住んでいました。

以来、今日まで、十勝地域の総人口は35万人前後で推移していますが、町村部の多くは、農業、水産業と並んで十勝の基幹産業であった林産・木材業が、1960（昭和35）年に始まった木材の輸入自由化による安価な外材の増加に加え、坑木の大量の需要があった石炭産業の衰退という要因も重なり、急速に衰退を続けました。

また、87（昭和62）年の国鉄士幌線・広尾線の廃止、89（平成1）年の池北線の第3セクター転換（2006年廃止）、さらに行政改革や合理化再編による官公庁や企業の撤退などにより、町村部の人口は7万人も減少しました。

都市部より早く人口減少と高齢化が同時に進むなか、住民と最も身近に接している私たち基礎自治体は、強い危機感を持って、基幹産業の振興はもとより、定住、子育て、教育、医療、福祉、高齢化などの施策の充実にも、それぞれ特徴ある取組みを積極的に進めてきました。

このような中、政府は、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持するために、「地方創生」への取組みを本格的に開始しました。

私たちは、これを歓迎するとともに、これが十勝町村の活力を取り戻し、将来の可能性を産み出す最大のチャンスと考えます。

国や北海道はもとより十勝の中心都市帯広市とも連携しながら、今こそ、現状の枠組みにとらわれない新たな視点から、「住民が安心して暮らし、若者が将来に夢や希望を持てる元気で豊かなまちづくり」に向け、行政、企業、団体そして地域全体で「ヒト・モノ・カネ・チエ」を結集して行動しなければなりません。

私たちは、今年度中にそれぞれ「人口ビジョン」と「創生総合戦略」を策定します。人口減少に歯止めをかけるには息の長い取組みが求められますが、今から直ちに取組みれば、地方への人の流れをつくり、東京一極集中型社会を変えていくことは十分に可能です。

人口減少対策に総力をあげて取組み、将来にわたって「活力ある十勝地域」を維持していくことが私たちに課せられた使命であります。

私たちは、それぞれの発想と実行力を持って互いに競争しながらも、十勝への人の流れを作るため、一体となって「十勝創生」のために行動することを、ここに宣言します。

平成27年5月19日

十勝町村会臨時総会

音更町長	寺山憲二
士幌町長	小林康雄
上士幌町長	竹中貢
鹿追町長	吉田弘志
新得町長	浜田正利
清水町長	高薄渡
芽室町長	宮西義憲
中札内村長	田村光義
更別村長	西山猛
大樹町長	酒森正人
広尾町長	村瀬優
幕別町長	飯田晴義
池田町長	勝井勝丸
豊頃町長	宮口孝
本別町長	高橋正夫
足寄町長	安久津勝彦
陸別町長	野尻秀隆
浦幌町長	水澤一廣